



あけましておめでとうございます。



第3号をお届けします。

今回も社長様方の「経営」への熱い思い、「共に働く従業員」への熱い思い、ものごとをスムーズに進めるためのちょっとしたアイデアがいっぱい詰まった記事を掲載することが出来ました。投稿頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。部数に余裕がありますので、社内配布などで必要な場合はお申し出ください。なお、当組合のホームページ[www.daiki.or.jp]にも掲載しておりますので、そちらからもご覧いただけます。

*詳細をお知りになりたい場合は、各記事に記載のE-Mailアドレスか電話でお問い合わせください。

① 人材教育

株式会社エンジニア 代表取締役社長 高崎 充弘

✉ takasaki@engineer.jp ☎ 06-6974-0028

工夫(を生きるための)るつぼ



「るつぼ」は、金属を加熱溶融し混合させる為の耐熱容器で、理化学実験や鋳工業などで使われます。また「人種のるつぼ」(アメリカ)というような、さまざまなモノや人が混じり合って、混沌とした状態になっているような場合にも使われます。「興奮のるつぼ」という表現は、コンサート会場などで人々が興奮に沸き返る様子が、るつぼの中の高温の金属と似ているからでしょう。本コラムのタイトルである「工夫のるつぼ」はその「興奮のるつぼ」をもじってつけられたものだと思いますが、創意工夫で溢れているるつぼ(=会社・業界)は、必ず成長発展することと思います。

そこで今回私は、「工夫(を生きるための)るつぼ」というテーマで、アイデア発想法についてお話したいと思います。

ステップ1

最初のステップは、るつぼの中に様々な材料を入れ込むことです。鍋の中に肉や野菜などたくさんの具材を入れなければ調理が始まりません。本を読み、専門家の話を聞き、展示会や現場に足を運び、できるだけ多くの情報を収集することが重要です。高校や大学などでの勉強もこのプロセスにあたります。

ステップ2

次のステップはるつぼを高温に加熱し、或いは鍋を高圧に加圧することです。つまり強烈な問題意識を持つ

こと、解決すべき課題を見つけ必死に考え続けることです。学校で勉強しただけの知識はそのままでは役に立ちません。目の前の問題解決に向けたベクトルの向きを揃えることが重要なのです。

さあ、ぐつぐつと煮立ってきましたね～。そこで最後のプロセス。

ステップ3

圧力をすっと一瞬抜いてやるのです。すると鍋(るつぼ)の中から見事な料理(創意工夫・アイデア)が現れます。昔から、馬上、枕上(ちんじょう)、厠上(しじょう)と言って、馬に乗っている時、寝床に入っているとき、厠(かわや)に入っているときにいいアイデア(文章)が浮かぶとされてきました。つまり、リラックスするシーンですね。強烈な問題意識をもっていてもそれだけではアイデアはでません。ちょっと息を抜いた瞬間に「！」ヒラメクわけですね。ちなみに私はサウナが大好きで、水風呂とサウナ浴を繰り返すなかで、新製品のヒントを思いつくことがあります。また、明け方、寝床の中で課題解決に繋がるアイデアが思い浮かぶこともしばしばあります。

是非、皆様も「工夫(を生きるための)るつぼ」の3ステップをお試しいただければ幸いです。ただし私の経験上、アルコールもリラックス効果があり、アイデアがどんどん出てきます…が、酔いが覚めると意外とつまらないものだったり、飲みすぎると記憶が飛んだりしますので…ご注意ください。(*^^*)

② 人材教育

浜正機工株式会社 常務取締役 山下 政司

✉ yamashita@hamashou.co.jp ☎ 06-6531-1383

会社での創意工夫（社長の一声、発案など）の事例

▶ 社内コミュニケーション

社内各部署管轄の若手社員を中心に、それぞれまとめ役を決め、社内における情報共有の場が出来上がりました。名づけて“PLUS ONE（プラスワン）委員会”。

情報の内容はグループウェアの掲示板にコーナーを設け、その都度新しい情報を掲載しています。

具体的には、

- ① 仕入先さんからの新商材、新製品の紹介
 - ② 各営業における顧客への提案、成功事例の紹介
 - ③ 海外現法からの情報紹介
 - ④ その他なんでも新情報があれば紹介
- 特に新製品で拡販が見込める商材は、メーカーさんに商品説明会の場を設けて頂き、情報収集、勉強会を行う。

▶ 商品販売ツール（在庫品）

我が社の特徴（工夫）とまでは行かないかも知れませんが、在庫商品を組み換え、ユニット化して販売する。また、長年の課題であった在庫商品のWEB発注を開始しました。お客様はリアルタイムで弊社の在庫状況を

確認でき、そのまま発注が出来る。お客様の手間を省き、社内受発注フローの効率化にも貢献しております。在庫商品そもそものメリットである品揃えが、仕入課の腕の見せどころです。

▶ 朝礼のあり方

朝のあいさつに始まり、朝礼の最後は、“今日も一日よろしくお祈りします！”の言葉で締めます。どこの会社さんもされている所は、一方的な連絡の場、ほとんどの皆さんが聞き手になる集まりになってしまいがちな点が問題に思います。そんなマンネリ化を少しでも変えて行こうと、社長をはじめ管轄長、日々朝礼当番の発言の機会を設けています。テーマを決めずにフリートークをさせていましたが、その場を繕う天気の話、体調の話が多くなり行き詰まっています。今後はテーマ、話題のタイトルをもうけて話をするようにし、聞く側に笑顔や、元気が出るような形になれば理想です。聞く人を引き付ける話をするのは難しい事ですが、まずは自分が聞き手になった時の事を考え話をするように、元気に、明るく、テンポ良く、話題豊富に、朝礼はみんなの勉強の場であると思っています。

③ 福利厚生

河田機工株式会社 取締役会長 河田 徹

✉ kawata@kawatakiko.co.jp ☎ 06-6902-2671

年末の大掃除は暖かいうちに

昔々、年の瀬12月末の仕事納めの日には、寒風吹きすさぶ中、社員全員で会社社屋の窓拭きや社屋廻りの下水溝の掃除等を、手を真っ赤にして大掃除し、新年を迎えたものでした。そのせいで風邪をひいて、お正月を寝て過ごした社員もいたようです。

しかし今、我社では寒風吹く年末を迎える前の10月頃、ポカポカ陽気の日に窓拭きや社内の拭き掃除を終えるようにしています。

年の瀬は何かと気忙しく、お客様も年末年始関係無く生産されている時代ですので、そのお付き合いで掃除どころではありません。

ポカポカ陽気の頃の掃除は風邪をひくこともありませんし、まさに社員や会社にとっても良い事だらけで一石二鳥です。

皆様も試されてはいかがでしょうか。もちろん普段から掃除をこまめにすることは大事なことですよ。



④ 総務・その他

株式会社 中恒 代表取締役社長 秋 陽子

✉ nakatsune-tenjin@yacht.ocn.ne.jp ☎ 06-6351-0551

工場でも芸術の秋？ ～ソケットを使ってスプレーアート～



芸術の秋！ということで、工場で余っているようなソケットで宇宙の絵ができました。スプレーを吹き付けるだけなので時間もほとんどかかりません！

実はソケットでなくても丸いものなら何でも構いませんので、ソケットなんて余ってないというあなたもぜひ試してみてください！



15分で
宇宙の絵が
完成！

青白のまだらが地球、赤と黄の丸が火星になります。

⑤ 総務・その他

Joyful 喜一ホールディングス株式会社 代表取締役社長 田中 健一
〈谷本 眞一〉✉ sinichi.tanimoto@joyful-cube.com ☎ 06-6532-6221

子供たちへ工具教室

Joyful-cubeグループは、日々の営業活動でモノづくりを支える事はもちろんとして、営業以外の側面からもモノづくりを支える活動に力を入れています。

昨年秋から今春にかけて東大阪の小学校で工具教室を開催しました。この教室は、東大阪の行政・教育・民間企業が三位一体となり「子供達にモノづくりへの興味や楽しさを感じてもらい、将来を担う人材育成に役立てます」をテーマにした取り組みです。

私たちの工具教室は、工具の歴史・基礎・安全などについてクイズなど織り交ぜながらのプレゼンテーションと木工工作（飛行機）を協力しながら完成させるというスタイルで構成しました。

工具の歴史プレゼンテーションでは興味深そうに話を聞き、実技では工具を使い楽しそうにモノづくりに没頭している様が印象的で、この子供たちの中から将来のモノづくり業界で活躍する人がたくさん誕生して欲しいと願う1日となりました。

今後も私たちJoyful-cubeグループは、日々の営業活動及び地域に密着した社会貢献などを通してモノづくりを支えてまいります。



⑥ 総務・その他

トラスコ中山株式会社 代表取締役社長 中山 哲也
〈秘書課 村田〉✉ mizuki.murata@trusco.co.jp ☎ 03-3433-9839

物流関連のオススメ

1. 棚から足が四本不要となる

倉庫の棚ってどのように設置されているでしょうか？

一般的には奥行45cmの棚を背中合わせに使用されている場合が多いのではないのでしょうか？

弊社では、90cmの棚を1台設置し、両側から使用しております。90cmの棚を置くことで広々と物が置け、右側から30cmのモノ、左側から60cmのモノを置くことも可能です。さらに、一台当たり棚柱4本の削減にも繋がります。

4本の削減することで、その分多くの在庫品の収納が可能となります。高密度収納が煩雑な倉庫管理を助けてくれます!!



1台につき4本なので
柱は合計8本ナリ!



奥行90cmの棚なら
1台なので柱は4本です!

2. 出荷物の重量を量るとコストダウン

毎日出荷する荷物、重量を自分で量ればコストダウンに繋がります! 送り状の横に、重量を明記することで、運送会社さんはその表記を参考にしますから、物流コストを少し抑えることが可能です。

もちろん、運送会社さんがワザと多めに明記しているワケでもこちらが少なめに明記しているワケでもありません。しかし、運送会社さんは多目に重量を書くことはあっても、少なめに書くことは無いワケですから、キチンと明記することで適正な運賃コストとなります。

実際、当社も以前この方法を取り入れた際は、おおよそ30%のコスト削減につながりました。(現在は共通運賃での運用。) 手間に感じるかもしれないですが実際にやってみると大きな効果が現れるのです!



「自分で計量」
がオトク!



生涯現役で働ける職場に

現在は、65歳には定年退職という会社が一般的ではないでしょうか。

当社では高齢者の就業意欲向上の為、2010年に定年制度を改定し70歳定年、その後は健康で働く意欲があれば年齢の上限なく再雇用とし、「生涯現役で働ける職場づくり」を推進しています。現在、社員数97名に対して60歳以上24名（うち70歳以上5名）という人員構成となっています。

具体的取り組み

- ① 身体的負荷の少ない職種への転換制度の創設
配送担当から検品担当など。
- ② 高齢従業員向け賞与に人事考課を反映
- ③ 営業職の技能伝承
高齢従業員が講師となった集合研修を実施し、次世代への技能伝承に努める。
- ④ 高齢者による商品運搬作業時の重量制限
商品運搬作業時の重量を制限。若手従業員との分業を徹底して重量物取り扱いの安全対策を推進。

⑤ ドライブレコーダーの設置

配送業務の安全徹底の為、営業車両にドライブレコーダーを搭載し、安全運転意識を常に喚起。この実績として、「大阪府無事故無違反チャレンジコンテスト」で、高齢者で編成したグループにおいて、2014年・2015年と無事故無違反の金賞を受賞しています。

これら高齢者雇用の取り組みに対して、10月には高齢者雇用開発コンテスト（応募総数129編）において、厚生労働大臣表彰（優秀賞）を頂きました。



第4号の投稿を募集します

引き続き「るつぽ」という名にふさわしい、社長様方の熱い思いが伝わる書面を作りたいと考えています。各社様それぞれに、さまざまなことを考え実施されていることと存じます。下記に分野ごとに整理しておりますのでご参考にしてください。

- 投稿要領 500字程度 題名 お名前 Eメール 電話 も入れてください
- 締め切り 2017年4月28日 投稿先: 組合事務局宛
- Eメール kk6802@daiki.or.jp
- TEL・FAX TEL:06-6541-6802 FAX:06-6541-6530



お問い合わせ先：組合事務局 阪口 ✉ kk6802@daiki.or.jp ☎ TEL06-6541-6802

販売関係	*業務の改善・効率化 *コストダウン *取扱品目の拡充・削減 *その他
顧客関係	*ニーズ掘起こし *顧客とのコミュニケーション *新規先開拓 *その他
組織関係	*役割分担・組織の見直し *組織の円滑化 *部門間での協働 *その他
人事関係	*採用 *外国人雇用 *人事評価 *幹部登用・評価 *その他
人材教育	*商品知識・技術の向上 *社会人としての基本習得 *実践力強化 *その他
福利厚生	*社員の定着 *労務の円滑化 *職場環境の改善 *健康管理 *その他
総務・その他	*決算対策 *管理部門のコストダウン *業異業種交流 *外部ブレーンとの交流 *社会貢献での交流 *その他どこにも属さない事柄